

コンドロイチンを増加させる変異の発見とその老化抑制効果



柴田 幸政 博士

The Chinese Institute
for Brain Research (CIBR)

日時：11月4日(火) 13:30-15:00

場所：理学部 A222

コンドロイチン糖鎖は細胞外マトリックスの構成成分であり、医薬品やサプリメントとしても流通しています。しかし老化に対するその効果をはっきりと示した例はありませんでした。私たちは、*C. elegans*の遺伝学を用いることで、体内のコンドロイチン量を増加させる変異を発見しました。これにより体内のコンドロイチン量の増加が、寿命の延長と老化の抑制に効果があることを明らかにすることができました。セミナーではコンドロイチンが、リソソームの

形態を介して老化抑制を行う仕組みなど、コンドロイチンの下流で働く分子機構も合わせて紹介します。また現在所属している北京の脳科学研究所についても合わせて紹介しますので、中国でのサイエンスに興味のある方もお越しく下さい。

